



人間にはどうして足があるの

足があるのは動物である証拠

足は、わたしたちの体をささえ、体全体を移動させるはたらきをしています。生き物のうち、動物にはみな、足や足のはたらきをするものがあり、体を動かすことによって、生きていくためのいろいろな活動をしています。

わたしたち人間の祖先が、初めて二本足で大地に立つ人間として出現したのは、500万年くらい前だといわれていますが、その人間は、ほかの動物たちと同じように、もともとは原始的なものから進化したものです。そして、そのころにはもう、足や足のはたらきをするものを、もっていたのです。

ですから、人間の体の器官の数や位置、なぜあるのかなどについては、わたしたちは、ただあるがままに受け取るしかないようです。

足を動かすしくみ

骨にくっついて、運動に関係している筋肉を骨格筋といいます。この筋肉の両はしは、じょうぶな腱というものになっており、これが骨にしつかりとくっついて、骨を動かしています。

骨格筋が骨を動かすので、体が動くわけです。

足には、骨・筋肉などがあります。足の筋肉は、体の重さをささえ、体全体を移動させるはたらきをするため、大きくじょうぶに発達しています。

(監修・保志 宏)

